

先日のありがとう集会では、1年生から5年生のみなさんは、6年生へのありがとうの気持ちを込めた素晴らしい出し物をしてくださいました。また、5年生の皆さんは、準備、運営、片付けまで、しっかりと行ってきて、たのもしく感じました。

昇降口の「よろこびの木」には、6年生の「ありがとう」という言葉がたくさん貼られています。1年生から5年生のみなさんの「ありがとう」の気持ちはちゃんと伝わったようですね。

先日も「ありがとう集会」でお話した通り、校長先生は、「ありがとう」という言葉が、日本語の中で一番好きなので、昇降口の廊下を通るたびに立ち止まり「よろこびの木」の掲示を見て、にやにやしています。そんな「よろこびの木」の掲示を見て、次のように思いました。

みんな、嬉しいことがあると自然と「ありがとう」と言えるようです。素晴らしいと思います。

では、次のような時は、ありがとうと言えているでしょうか。

「朝、起こしてもらった時」
「ご飯を作ってもらえた時」
「ほめてもらった時」
「叱ってもらえた時」



昇降口の「よろこびの木」

どうですか。言えていますか。

皆さんにとって、自分の親が子どもを起こすのは当たり前、ごはんをつくるのは当たり前、頑張ったらほめてもらえるのが当たり前と思っている人が多いのではないのでしょうか。

叱られて「ありがとう」なんていうわけがないと思う人も多いでしょう。

ですが、皆さんが当たり前と考えている「朝起こす」「ご飯を用意する」「ほめる」などしてもらえなかったらどうでしょう。

あるいは、悪いことをしていたり、怠けているときに叱ってもらえなかったら、みんなはどうなってしまうのでしょうか。困ってしまいますよね。

もし、このように当たり前と思っていることにも感謝の気持ちを持たたなら、もっと幸せな気持ちになれるかもしれませんね。

今年度の学校生活もあとわずかです。クラスの友達や先生にちゃんとありがとうの気持ちを伝えてお別れしたいですね。

以上でお話を終わります。

お話を聞いてくれて「ありがとう」。